

一般社団法人日本コンクリート診断士会
第6回定時社員総会議事録

1. 日時：平成27年5月26日（火） 14:00～15:30
2. 場所：公益社団法人 日本コンクリート工学会 11階会議室
3. 資料：一般社団法人日本コンクリート診断士会第6回定時社員総会資料
 - (1) 第1号議案：平成26年度事業および収支報告
 - (2) 第2号議案：平成27年度事業および収支計画
 - (3) 第3号議案：細則改訂
 - (4) 報告-1：各地区コンクリート診断士会活動報告と計画
 - (5) 報告-2：会員数等報告
 - (6) 報告-3：参加委員会活動報告
 - (7) 報告-4：理事・監事・幹事一覧

4. 出席者数

学術・正会員出席者数：当日出席65名（65名）+委任状出席 750名

計815名（4月1日現在議決権数：1173名）

賛助会員出席者数： 7名

法人会員出席者数： 6名(5社)（法人枠で登録の会員を除く）

メディア関係： 1名(セメント新聞)

（ ）内は最終出席者数である。

5. 議事

5.1 開会宣言：開会を司会の田沢理事が行い、総会成立について定数の確認が行われ出席65名、委任状出席750名の815名で、総会成立要件587名（議決権数1173名の半数）を満たしているとの報告がなされた。

5.2 議長の選出：定款13条により議長に林会長が選出され、挨拶があった。主な内容は以下の通りである。

- ・毎年、本会の会員が増えてきている。そして、民間資格認定がこんなにたくさんあるのかと驚いている。
- ・コンクリート診断士試験等の対応を考えているところで、診断士も自ら技術を磨いていくことが必要です。JCDもこれに役立つようにしていきたい。
- ・本日の特別講演は、長岡技術科学大学の丸山名誉教授による維持管理の話です。

5.3 議案

5.3.1 第1号議案について

(1) 資料 (1) の第1号議案の事業報告(案)について各部会から説明した。

①企画部会

- ・情報の共有を図るため部会長会議を新設し、開催した。
- ・JCDの現状の課題と今後の活動について報告書をまとめた。

②技術部会

- ・第2回業務体験発表会を開催した。
- ・インフラドック委員会の報告会が7月30日に開催される。

③広報部会

- ・メールかわら版を2回発行した。
- ・HPの充実をした。

③会員部会

- ・地区の会のない空白地区の設立支援，設立されているがまだ本会に入会していない地区へ対応した。

④財務部会

- ・中間決算を行い，健全な財務の執行に努めた。

⑤事務局

- ・会員証の裏に「行動規範要約」を印刷して配布した。
- ・事務局の業務の効率化を進めた。

(2) 資料(1)の第1号議案の収支報告(案)について井田理事(会計担当)から説明した。

(3) 伊藤監事より監査報告がされた。

(4) 上記の説明に対して異議はなく，第1号議案は原案通り承認された。

5.3.2 第2号議案について

(1) 資料(2)の第2号議案について各担当理事から説明した。主な事項を示す。

①企画部会

石川理事から27年度の計画について下記の説明があった。

- ・国交省の民間資格認定制度への対応
- ・26年度に技術部会から提案した現状と今後のあり方にもとづき本会が前進するように少しでも課題解決について推進していきたい。
- ・とくに，地区の会の情報を共有できるようにしていきたい。

②技術部会

奥田理事から27年度の計画について下記の説明があった。

- ・第3回全国業務体験発表会を金沢で11月27日に開催予定である。
- 本発表会では，参加者70名，発表10編を計画している。また，28日に見学会を実施予定である。

③広報部会

岸川理事から27年度の計画について下記の説明があった。

- ・メールかわら版を4回/年の発行予定で，地区の会の紹介を2地区/回の予定である。
- ・HPには，地区の会からの情報を充実させたい。
- ・関連官公庁への積極的なPRを行いたい。

④会員担当

奈良理事から27年度の計画について下記の説明があった。

- ・山口県コンクリート診断士会，奈良県コンクリート診断士会が入会の方向にある。
- ・法人会員を増やしていきたい。

⑤財務部会

竹内理事より27年度の計画について下記の説明があった。

- ・27年度収支計画（案）
- ・今年度も中間決算を行い財務執行の健全化に努める。

⑥事務局：

毎田理事から27年度の計画について下記の説明があった。

- ・各部会，地区会との連携強化を進めたい。
- ・会員サービスの向上，業務の効率化をさらに進めたい。
- ・部会長会議の支援の実施。

(2) 上記の説明に対して異議はなく，第2号議案は原案通り承認された。

5.3.3 第3号議案について

- (1) 資料（3）の第3号議案である「部会長会議の設置」について小野副会長から説明した。
- (2) 上記の説明に対して異議はなく，第3号議案は原案通り承認された。

5.4 報告

5.4.1 報告-1について

(1) 資料（5）の報告-1：各地区コンクリート診断士会活動報告と計画について各地区の部会長から報告を行った。各地区の会からの報告の主なトピックスは以下とおりである。

- ・福井（石川会長）：①11年目で会員は110名になった。官公庁に所属している会員は約20名である。②官公庁とはメンテナンス会議などで連携している。③HPを改装した。
- ・鳥取（奥村会長）：①会員数は42名と7名増えた。②9/11に10周年記念を島根県と共催で企画している。
- ・島根（井田会長）：①山陰両県の記念事業を計画している。②島根県測量協会からの委託で受験講座を予定している。
- ・東京（小野会長）：①11/11に10周年記念を予定している。②技術セミナー2回と現場見学会1回を計画している。
- ・石川（奥田相談役）：①第3回業務体験発表会を金沢で開催予定である。②金沢大学SIPは府省を超えたプロジェクトで26年秋から活動している。石川，福井が協力している。
- ・大分（後藤事務局長）：①26.9.26に藤井先生を迎えて技術講演会・パネルディスカッションを開催した。②業務体験発表会に今年度は発表予定である。
- ・静岡（天野代理）：①受験講座は3回目になった。②県他に講師の派遣を行った。③6月に技術研修会を予定しており，県他の役所からは約130名参加予定である。ここでは業務体験発表会での発表者を招いている。
- ・青森（奈良会長）：①勉強会を2回開催した。②JCI東北支部の技術研鑽会を共催予定である。
- ・高知（原田会長）：①高知での合格者の会員への入会率90%以上である。②9/25にKITでコンクリート技術研修会を開催予定である。
- ・京滋（岸川事務担当）：①会員数は84名となった。※JCD会員は16名
- ・新潟（伊藤副会長）：①会の行事がだんだんマンネリ化してきた。②見学会で「現地で点検し，後日診断する」ということを実施した。③広報（入会促進）と受験支援を

強力に進めたい。④新潟県ではほとんどの種類の劣化が見られる。

- ・北海道（田畑副会長）：①26年度は外部講師の依頼があった。②27年度は研修会を地方（札幌以外）でも実施予定である。
- ・東海（竹内会長）：①26年度の受験講座受講者は30名で8名が合格した。②27年度も受験講座を開催予定である。③技術研修をオープン形式で開催した。④総会は5/22で記念講演にJR西日本の松田さんをお願いした。⑤奈良県コンクリート診断士会の6/8の設立総会に参加予定である。
- ・長野（倉科代理）：①27年度は例年通りの活動を計画している。講演は「ひび割れ計測システム」である。
- ・広島（米倉会長）：①当会も設立して4年になる。②26年度は、診断士普及講習会への講師派遣、コンクリート探偵団他を実施した。③27年度も同様な活動を計画している
- ・宮崎（小林代理）：①宮崎では、民間、官庁の関心が強い。②27年度総会で広島工業大学の十河教授が講演予定である。

5.4.2 報告-2について

- (1) 資料（5）の報告-2：会員数報告について4月1日現在の会員数1309名（学術：18名，正会員：1155名（うち，10は直接入会，32名は法人からの登録），賛助会員136名（うち，10名は法人からの登録）），法人会員は71（ランクA：13社，ランクB：9社，ランクC：49社）で，昨年度比99名増，法人会員3社増と奈良理事から報告を行った。

5.4.3 報告-3について

- (1) 資料（6）の報告-3（1）：サステナビリティ委員会サステナビリティフォーラム報告について木村（TCD）から26年度の活動概要など報告を行った。今年度は，コンクリート関連業界などとの意見交換を行い，サステナビリティの普及を内輪から推進していく旨の報告を行った。
- (2) 資料（6）の報告-3（2）：インフラドック構築フィージビリティ調査研究会活動報告について峰松（TCD）から26年度の活動概要，本年7月30日にこれまでの委員会活動に関するシンポジウムを開催するとの報告を行った。

5.4.4 報告-4について

- (1) 資料（7）の報告-4：JCD理事・監事および幹事の名簿について事務局長より紹介した。

5.4.5 その他

- (1) 国交省の民間資格活用について

上記について小野副会長より下記の報告がなされた。

- ・橋梁などの10分野がある。→コンクリート診断士は橋梁の点検のみが認定された。
- ・JCDとしては大きな問題として会長から提案し，3/31にJCIと意見交換会を開催した。
- ・認定するための要因については明確にされていないが，推定では過去5年間の試験問題などが審査の対象になったようだ。点検には基礎的な知識，診断には専門的な知識が求められているようだ。

- ・結果として、試験問題内の構造に関するものが不足しているようだ。今年度の試験には構造に関するものを増やすとの話もあった。
- ・JCIの年次大会の講演（7/15・国交省企画政策局社会資本整備担当；中原参事官）でも質問できるチャンスがある。

(2) 上記の説明に対して下記の質疑が行われた。

Q1：国の考えがあるとのことだが、どのようにとらえればよいのか？また、ギャップをどのように埋めるのか？

A1：国交省が何を目的にしているかである。何故だめかは？？である。JCIがどのように考えるかだと思う。JCDは、意見は言えるが他はできない。

コンクリート診断士：化学関係の人も受験できるようにしている。ここのところは？？になったのではないか。

JCIの診断士試験案内の記述が適切であったかどうかのことも考えられる。

・

5.5 閉会の挨拶

佐藤副会長より閉会の挨拶があった。

- ・JCDも発足から5年が経過し、各部会も活発に活動しだした。
- ・会員への登録者の入会率は約10%とまだまだ増やせる見込みはある。

6. 特別講演

(1) 特別講演が、下記の通り行われた。

- ・講師：丸山 久一氏：長岡技術科学大学 名誉教授
- ・演題「新潟地域におけるインフラの維持管理」～技術者育成の取組と今後の展望
- ・講演時間：15:40～16:50

講師の紹介（紹介者：小野副会長）の後に講演が開始された。

講演では、新潟地域での取り組み例を取り上げて講演が進められた。

(2) 「新潟地域におけるインフラの維持管理～技術者育成の取組と今後の展望～」講演の内容

- ・背景では、①劣化は使用環境による、②予算が対応していない、③H10年頃が公共投資のピーク、④管理者が危険だと思えば通行止めにする、⑤新潟県道路メンテナンス会議を設立し、できる自治体とできない自治体をふるい分けた、等の説明があった。
- ・維持管理の現状では、①技術者の居ない自治体が多い、②管理すべき橋梁が多い、③それに対して人材・機材が不足している、④橋長によって点検の仕方は違う、等の説明があった。
- ・ME新潟について、①新潟で協議会を設立した。長崎大、岐阜大で先行して実施中である、②ここでは何を見るかを覚えてもらうことが主眼である、③相談できる等のネットワークが重要である等の説明があった。

(3) 講演に対する質問

Q1：補助器具の開発などは？調査位置のマーキングがあると写真撮影他で調査の合理化ができるが？

A1：現在、位置はわかるが部位まではまだ対応していない。現在のシステムで長大橋までは考えていない。どこを見ればよいかかわればよい。例えば、2mの橋は壊れにくい。

現実におかしくならなければよい。また、書類が重要ではなく不具合が生じないことが重要

である。

C1：以前、コンクリート診断士はそんな力がないのではないかといわれた。橋を作った人は1回/年程度見に行っているといっていた。関与できる人を制限して欲しくない。とくに、地域の人に関与してもらうのがよい。一律に決めることの不具合が出ているのではないか。

A2：同じ考えである。ネットワークをどのように作るかが重要である。地域の人に見てもらうことは地域の人の生きがいにもつながる。ただし、責任は別のところでとる必要はある。早く予兆がとらえられればよい。責任追及が厳しくなりすぎると不幸である。

7. 閉会宣言があり、16:55に閉会した。

文責：木村（事務局）

総会議事録捺印

- | | | |
|----------------|--------|---|
| 1. 理事・会長 | 林 静雄 | 印 |
| 2. 理事・副会長 | 小野 定 | 印 |
| 3. 理事・副会長 | 佐藤 嘉昭 | 印 |
| 4. 理事・企画部会長 | 石川 裕夏 | 印 |
| 5. 理事・企画部副部会長 | 原田 隆敏 | 印 |
| 6. 理事・企画部副部会長 | 岡崎 勝信 | 印 |
| 7. 理事・技術部会長 | 奥田 由法 | 印 |
| 8. 理事・技術部会副会長 | 奥村 智洋 | 印 |
| 9. 理事・技術部会副会長 | 米倉 重州夫 | 印 |
| 10. 理事・広報部会長 | 名倉 昭三 | 印 |
| 11. 理事・広報部副部会長 | 日堂 俊之 | 印 |
| 12. 理事・広報部副部会長 | 岸川 秀樹 | 印 |
| 13. 理事・会員部会長 | 奈良 裕 | 印 |
| 14. 理事・会員部副部会長 | 田澤 雄二郎 | 印 |
| 15. 理事・財務部会長 | 井田 豊 | 印 |
| 16. 理事・財務副部会長 | 竹内 祥一 | 印 |
| 17. 理事・事務局長 | 毎田 敏郎 | 印 |
| 18. 監事 | 伊藤 司郎 | 印 |
| 19. 監事 | 田畑 雅幸 | 印 |